

パブリックコメントに寄せられた意見一覧

平成19年3月21日
高等学校課

普通学科の減に反対 (2件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|---|
| 1 | 不明 | 高校で一般教養を学び、進学後に専門知識を学ぶ方が現実的で、普通科のクラスを増やすほうが生徒の選択の幅が広がる。 |
| 2 | 中部 琴浦町 | 普通科志向が強い現状からみて、普通学科の減には反対。普通科にいけないから専門学科に行くという生徒が多い。 |

専門学科の減に反対 (3件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|---|
| 1 | 西部 境港市 | 数年前にかなりの数の専門学科が統合により無くなっている。専門学科の学級減は県内で産業に携わる人を減らし、産業の衰退にも繋がる。学級減にするのなら、専門学科でなく普通学科にするべき。また、専門学科の教育内容等をもっと周知することが必要。 |
| 2 | 東部 鳥取市 | 現行の学科、学級数は維持する。特に専門学科の学級減は実質的な廃科に繋がるため問題がある。 |
| 3 | 東部 鳥取市 | 専門学科(特に工業・農業)は存続させ、学級定員を減らし少人数学級での対応が望ましい。 |

定員割れの学科を減らすべき (1件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|----|---|
| 1 | 不明 | 皆が行きたい学校を残し、いくら地元から存続を切望されても、定員割れの学科、学校から減らすべき。まず中学生の意見を聞いてほしい。 |

定員の普職比率にこだわるべきでない (1件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|---|
| 1 | 東部 鳥取市 | 成績がよければ大学進学を目指し普通科を志望する保護者や生徒が多い。専門学科も大切だが、学科の比率にとられすぎない方がよい。 |

地区ごとの生徒減の状況を考えながら対応するべき (3件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|---|
| 1 | 中部 倉吉市 | 学級減はやむを得ないが、各地区一律に3学級減でなく、生徒数の減少に対応し中部は2学級減にとどめてほしい。 |
| 2 | 中部 東伯郡 | 地区ごと、年度ごとの生徒数減に対応した学級減を検討するべき。一律でなく、中部は2学級減にとどめるべき。 |
| 3 | 東部 鳥取市 | 生徒が減少するなか、学級減はやむを得ない。東部については21は現状維持、22・23年度に減らすほうがよい。 |

学級減に際しては学校の特色や内容の充実を図る (2件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|--|
| 1 | 西部 日南町 | 生徒数の減に伴う学級減はやむを得ない。学級を減らすことばかりに視点をおかず、むしろ県外からも生徒を呼び込めるような内容の充実を力を入れてほしい。 |
| 2 | 東部 鳥取市 | 学級減は避けられないが、それぞれ特色を打ち出した方向性のある学校にし生徒の資質や自信を伸ばしてほしい。その点で、総合学科等は入学後の進路選択に柔軟なようで、実は弱い部分がある。 |

学級定員減で対応すべき (12件)

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|---|
| 1 | 東部 鳥取市 | 学級定員の減で対応すれば、いじめなど生徒をとりまく難問が山積し人間関係を上手に構築できない生徒が多い今、教員が生徒に少しでも向きやすくなり、また、特定の学校だけでなく、全ての学校での生徒数減の吸収が可能となる。 |
| 2 | 不明 | 生徒数の減を学級減で対応するのではなく、学級定員の引き下げで対応する。今必要なことは、生徒一人ひとりにゆきとどいた教育を保障することである。 |
| 3 | 東部 鳥取市 | より生徒に目が届き決め細かな対応が図れるように、生徒数の減を学級減ではなく、学級定員の減で対応する。 |
| 4 | 中部 琴浦町 | 教育県を目指すというのなら、生徒数の減を学級減で対応するのではなく、学級定員の減で対応し、鳥取県の人材育成に尽くすべき。 |
| 5 | 西部 米子市 | 様々な状況の子どもたちに学習権を保障し、一人ひとりの子どもによりそった教育が求められている今、生徒数の減を学級減ではなく、学級定員の減で対応することが必要(普通科35人、専門学科33人)。 |
| 6 | 中部 東伯郡 | 年々複雑化する家庭環境等もあり、1人の先生が40人を受け持つことには無理がある。1学級の定員を30人にし、生徒と先生がのびのびとコミュニケーションをとりながら学業に打ち込める環境づくりをしてほしい。 |

| | | |
|----|-----------|---|
| 7 | 西部 | 生徒数の減を踏まえ、学級減を検討する」でなく、生徒数の減を迎えて「1学級の生徒定員減を検討する」ことが大切である。 |
| 8 | 西部 境港市 | 生徒や保護者の考え方が多様化している今、1クラスあたりの生徒数を減らし行き届いた教育をするべき。財源に問題があると思うが、未来ある子どもたちのためであり、減らすべきは他にある。 |
| 9 | 西部 米子市 | ・学力低下」や「学級崩壊」が叫ばれて久しいが、今こそ30人学級、20人学級ときめ細かな教育ができるチャンス。人口の増減に対し機械的な学級増減では教育改革ではない。 |
| 10 | 西部 米子市 | ・クラスの定員を減らせば生徒数減には対応できる。 保護者や生徒との関係が多様化する中、教員の目が行き届くには少人数のほうがいい。 |
| 11 | 東部 鳥取市 | 生徒数の減を学級減ではなく、学級定員減で対応し、現行の学科、学級数は維持する。生徒や志願者の減という数の問題に解消せず、本来あるべき教育の姿や教育条件整備について真剣に議論する機会とすべき。 |
| 12 | 東部 鳥取市 | 専門学科は存続させ、学級定員を減らし少人数学級での対応が望ましい。 |

学校の再編成には反対（2件）

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|---|
| 1 | 西部 米子市 | ・これ以上の学校の統廃合はしないほしい。 特に専門高校は一度失えばなかなか再生できない次世代への技術の伝承の場であり今、日本はまさにその危機にある。 |
| 2 | 東部 鳥取市 | 将来にわたり、これ以上の高等学校の統廃合は行うべきでない。 |

学校の再編成も考えるべき（2件）

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|--|
| 1 | 東部 鳥取市 | ・長期的に見た生徒数の減少の中では、現在の学校数の存続は難しい。分校化も視野に入れて、特色ある学校の教育内容を残すべき。 |
| 2 | 東部 鳥取市 | 学級減が進めば学校の非活性化にも繋がるため、学校の統合を考えざるをえない。 |

公私立の定員比率を撤廃すべき（2件）

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|--|
| 1 | 東部 鳥取市 | ・私立高校のがんばりにより、私立を落ちて公立に受かる状況も出ている。自由競争の社会であれば、いずれ県立と私立の入学定員比率の撤廃もしないとおかしい。 |
| 2 | 東部 鳥取市 | ・私立は独自の特色を出し生徒を集めればよく、公私立の入学定員の比率(8:2)を維持する合理的な理由が知りたい。 |

私立に配慮すべき（1件）

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|--|
| 1 | 西部 米子市 | ・西部は高専もあり公立の比率が高く、公私立の入学定員比率を確認し是正しないと私立の経営を揺るがしかねない。私立学校の経営破綻は地域に与える影響も大きい。 |

その他（7件）

| 番号 | 地区 | 意見・提案 |
|----|-----------|--|
| 1 | 東部 鳥取市 | 生徒数が減少するから学級数も減というのでは何の工夫もない。 大学同様、高校も全入にすればいいのではないかと。定員を満たさない学校の増加もありえるが、生徒が少ない分温かい教育が施せる。 |
| 2 | 中部 倉吉市 | ・公立での中高一貫校はできないのか。 |
| 3 | 中部 | ・推薦入試を廃止し、一般入試のみで選抜するべき。中学校での推薦の基準があいまいで、生徒間や教師への不信感がある。 ・県外生徒の部活動での入学を禁止すべき。 |
| 4 | 東部 鳥取市 | ・厳しい財政状況の中、「森林環境保全税」のように、教育条件の整備を目的とする「教育税」を新設し、国に先行して、自治体の政策として教育の充実を図るべき。 |
| 5 | 西部 米子市 | 各運動競技の強化指定校を、東中西地区にそれぞれ均等に配置するべき。 |
| 6 | 東部 鳥取市 | ・高校を広く県民に提供し、生涯学習の場などとして複合的な教育施設にする。 |
| 7 | 東部 鳥取市 | ・教員が複数校の授業に関わるなど学校間の協働を大切にすることで、生徒も教員ももっと触発されるべき。 |